

調査報告1：樹木葬～国内外での実例～

樹木葬とは：一般的な墓石を作らず樹木墓標にする方法が樹木葬です。新しい苗を1本植える方法や、墓地の中心にシンボルとなるような木を植えるという方法、また、その区画の周辺に埋葬する方法などがあります。

樹木葬のメリット

【遺族の負担が軽い】

- 樹木葬では墓石が無い場合が多く、清掃が不要であること、供物にも制限がある
- 使用料等は、通常の墓地に比べて安価に設定されているケースが多い

【故人の遺志を尊重】

- 価値観が多様化している中で、故人が持つ自然に還りたいといった遺志を実現できる
- 遺族に負担を掛けたくないという考えを持つ老年者もいる

樹木葬の想定される課題

【永続して管理していくための組織体制】

- 英国は慈善信託、日本では300年以上続く寺院が管理主体となっている
- 価格設定を含め永続性を担保していく必要がある

【周辺住民の理解の促進と用地確保】

- 英国の事例では、地元の理解が進まず、当初想定していた用地が確保できなかった
- その後も開発許可に時間が掛かるなどの問題が発生している

【環境保全のためのルール作りと利用者への浸透】

- 環境にダメージを与えないということをどこまでルール化していくかが課題(英国ではエンバーミング処理禁止)
- 墓標となる木の樹種選定にもノウハウが必要

実例

St Albans Woodland Burial Trust (英国)

所在地 英国ベッドフォード (ロンドンから北へ80kmの位置)



創始者
チャールズ・ロイデン牧師



Harrier地区
病気の木などを撤去し再造林した林地



埋葬地全体マップ



Linnet地区
最初の2エーカーの一つ



Goldcrest地区
ポプラを中心とした林地

知勝院 (岩手県)



埋葬方法



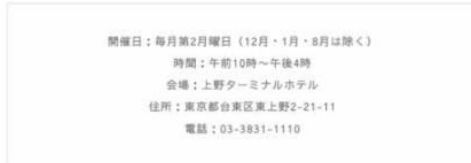
墓標となる低木と木札の実際のイメージ



大迫第二墓地(里山型)墓地

東京相談会

遠方の方向けに首都圏での相談会を定期開催しております。
個別での相談ブースを設けておりますので、お気軽にご参加ください。



毎月、東京での相談会を実施



一間墓地を象徴するケヤキの古樹